

分類	No	項目	3段階 評価※	評価コメント
ネットワーク形成の方針 柏市北部東地区内の歩行者、自転車ネットワークを地区外及び広域ネットワークとの接続を考慮して整備することにより、より豊かな生活の実現を図る。	1	利根サイクリングロードへの動線確保	▲	→ 特に動線を妨げる要素はないものの、本方針で掲げる「自転車による広域レクリエーション資源」としては弱い現状を踏まえ、引き続きネットワークの形成に取り組む必要がある → 今後は柏市の「自転車活用推進計画」への位置づけに向けて、関係者との調整を図りつつ、継続的に取り組みを進めていく
	2	都市軸の横断動線の確保	△	→ 駅の東西をつなぐ歩行者用の自由通路を整備済みであるものの、車道の横断動線は確保できていない箇所も残されている状況であるため
	3	柏たなか駅から1号近隣公園、川端調整池、2号近隣公園への動線確保	△	→ 柏たなか駅から2号近隣公園を結ぶ動線については、実現がかなわなかったものの、隣接する140街区では事業者の協力により一定の動線が確保されたほか、柏たなか駅から1号近隣公園および川端調整池へは水と緑のネットワークとして動線の確保を実現したため
	4	柏たなか駅から柏たなか病院への円滑な移動に資する動線確保	○	→ 駅西口に都市軸道路自由通路(エレベーター含む)を整備済みであり、バリアフリーな歩行動線が確保されているため
景観形成の方針 「農あるまちづくり」、「駅前の顔づくり」に配慮した景観を形成・誘導することにより、地域の賑わい、安らぎのある暮らしの実現を図る。	5	広大な利根川遊水地を眺望できる広がりのある景観創出	○	→ 利根遊水地や筑波山を眺望できる景観形成を目指し、壁面の位置や色彩などの景観上の工夫に努めることで、一定の景観創出を実現することができたため
	6	公共施設や利根川遊水地と一体感のある景観の形成	○	→ 近隣公共施設との一体感のある景観形成を目指して修景整備済みであるため
	7	既存樹木の保全	○	→ 本方針に掲げた既存樹木の保全を実施しているため
	8	建築物の高さ、壁面の位置、色彩等の工夫	△	→ 開発計画の情報を得た際など、機会を捉えて事業者に対し配慮いただけるよう協力要請を行っているが、法的な拘束力がないことから実現できないものもあるため
	9	駅東西の一体感のある空間、視線の抜け	△	→ 今後の高架下の利活用検討が課題となる中で、利活用時に視線の抜けを確保していくことが継続的な課題となるため
	10	農あるまちづくり、駅前の顔づくりに配慮した景観形成	△	→ 柏たなか駅前の開発時において、民間事業者による開発時に、外構の緑化や駅から見えた建築デザインの観点で配慮をお願いするなどにより、一定の景観形成を図れた。一方で、商業立地をはじめ駅前の顔づくりについては十分に達成しているとは言い難い状況であるため
	11	賑わい・憩い景観の創出	●	→ 柏たなか駅前公園を中心に、各種イベント等で多くの集客を得る事ができているため → 今後は各種イベントの継続的な実施に向けて、適宜、関係者との連携していく
	12	ネットワークを形成する周辺施設を意識した沿道景観の形成	○	→ 水と緑のネットワーク形成に向け、桜の植樹や沿道景観整備を実施しているため

分類	No	項目	3段階 評価※	評価コメント
土地利用の方針 地域の顔である、柏たなか駅の駅前にふさわしい土地利用の誘導及び、歩行者・自転車ネットワークや地区内外の地域資源(利根川遊水地、川端調整池、近隣公園など)を活かした土地利用を行うことにより、良好な都市環境形成の実現を図る。	13	人が集い・賑わう良好な都市環境の形成	×	→ 地権者や開発事業者に対して、機会を捉えて商業施設誘致の要請を重ねた結果、東口駅前マンションの1階部にテナントスペースが設けられたほか、スーパー、ドラックストア等が立地したものの、駅前への大規模な商業施設の誘致はかなわなかったため
	14	地域の人が利用できる空間の創出	△	→ 機会を捉えて要請を重ねた結果、駅から2号近隣公園への通行空間は実現に至らなかったものの、調整池や公園等の集いの空間を整備したほか、140街区においては事業者の協力により公共的な広場空間および斜めの通行動線の確保が実現できたため
	15	駅東西の連携による一体感のある土地利用形成	△	→ 駅前街区への商業誘導などを目指す地区計画上の枠組みを定めることを通じて、駅東西の一体感のある土地利用に向けて取り組んだが、特に商業立地については十分な成果が得られたとは言い難い面もあったため → 歩行者動線としては、駅の東西をつなぐ自由通路の整備などにより一定の一体感醸成に資する整備を完了しているが、更なる歩行者動線の向上を目指し、駅東西階段部分へのにエスカレーターの整備を目指して引き続き取り組みが必要な状況であるため
	16	鉄道用地を含めた土地利活用の促進	△	→ 駐輪場の出入り口部分として一部活用しているものの、その他の大部分については活用方法が未確定の状況であるため
	17	水と緑の拠点を結ぶネットワーク沿い、利根川遊水地隣接、駅近接の立地特性を活かした施設等の立地並びに良好な都市環境の形成	○	→ 民間企業の協力により、利根川遊水地隣接、駅近接の立地特性を活かした施設等の立地並びに良好な都市環境の形成が実現しているため
公共施設整備の方針 安全・安心生活の実現に資する整備を大前提とし、地区内外の歩行者・自転車ネットワークや地域資源、農あるまちづくりに配慮した整備を行うことにより、人の回遊・交流を促し、健康で安らぎがあり、活気のあるまちの実現を図る。	18	【調整池】防災機能の確保、周囲と一体感のある景観の形成(安全を大前提として、人々の憩い・集いの場となる空間形成のあり方を検討していく)	○	→ 調整池機能を確保しつつ、安全性と周囲との一体感ある景観形成ができているため
	19	【公園】地域交流・健康増進の場の形成(柏北部地域の春の象徴「桜」の活用等)	○	→ 駅前公園において地域交流のための各種イベントが継続的に行われており、また各公園において健康遊具の設置のほか、桜を活用した場の形成を実現しているため
	20	【公園】防災拠点の形成(避難場所の整備、一時避難空間の確保)	○	→ 各公園を一時避難空間としての活用が可能であるほか、非常時には2号近隣公園(柏たなか駅前公園)に移設した環境コンビニステーションを防災拠点として活用することも可能であるため
	21	【公園】農あるまちづくりの継承(環境コンビニステーション機能の移設、農業体験活動等)	●	→ 農あるまちづくりの拠点である環境コンビニステーション機能を移設し、農業体験や各種イベントなど地域の交流創出につながる活動に継続的に取り組むことができているため → 今後の継続性確保に向け、関係者との調整を図りつつ、自立的な運営の可能性も含めて、検証を進めていく
	22	【道路】沿道の公園や調整池、大規模宅地と一体となって、地区内外の回遊性創出や農あるまちづくりに資する緑ゆたかな景観を形成	△	→ 各公共施設については、方針に沿って一定の整備を完了したものの、地区内外の回遊性創出および緑ゆたかな景観形成については、将来的に多くの改善可能性を残す状況である。 → 特に、「ふるさと散歩道」については区画整理事業の中で一通りの整備を完了している状況であるものの、区域外への拡張のほか、現在までの整備状況についてのPRなど、より一層の魅力向上には未だ課題が残されているため
	23	【道路】特に水と緑のネットワークを形成する道路は、柏北部地域の春の象徴「桜」を植栽することにより、近隣公園と一体となった顔の形成	○	→ 水と緑のネットワークを形成する道路に、桜の植樹を実施したため

※「3段階評価」欄では、○・△・×の3段階の標語で評価をしています。項目に掲げた内容を達成しているものには○を、項目に掲げた内容を達成していないものには×を、項目に掲げた内容のうち一部を達成し、また一部を達成していないものには△の評価としています。また、3段階評価に関する説明を、「評価コメント」欄に記載しています。

※「3段階評価」欄の○もしくは△を●や▲のように黒塗りしている項目については、特に将来に向けた継続的な課題を有しており、今後も本方針とは別の計画等に改めて位置づけを検討するなど、引き続き具体的に取組むことを現時点において想定しているものを黒塗りで表現しています。なお、今後目指す方向について、その概要を「評価コメント」欄にも記載しています。